

英語科学習指導案

日 時 平成20年9月3日(水) 5校時
学 級 岩泉町立岩泉中学校
3年A組40名(男子20名 女子20名)
場 所 3年A組教室
指導者 教諭 田 中 美恵子
AET Jeff Holscher

1 単元名

Speaking Plus 1 コンサートに行こう(東京書籍 NEW HORIZON English Course 3)

2 単元について

(1) 教材観

Speaking Plus 1 は、コンサートのチケットを2枚もっているジュディが、慎をさそう内容となっている。コンサートに行こうとさそったり、待ち合わせの時間や場所を決める表現を学ぶ。「～しませんか」「～しましょう」などと、相手の行動を促したり相手をさそったりする言い方は、生徒の日常生活にかかわる場面でもよく使われるものであり、実際に言語の使用場面や働きにも配慮して、その言葉を使用・体験するのに適した題材である。

文法事項としては、Would you like to ...?を扱う。生徒はこれまで、人をさそったり、提案したりする言い方について、BOOK 1 で Let's (Let's have lunch.)を、BOOK 2 で shall(What shall we do?や Shall I show you a bigger one?)と Do you want to...? の構文を、BOOK 3 で Why don't you ...?(Why don't you join us?)などを学習してきた。本単元で初出の Would you like to ...?は、Let's ...などより丁寧でありながらも、友達同士でも使える表現である。また、Speaking plus 2 においては、人に食べ物などを「すすめる」表現の Would you like...?にもつながっており、適用範囲が広い表現であると言える。指導にあたっては、実際に Would you like to ...?を使って相手をさそう活動を行わせる中で、この表現の定着を図ってきたい。

(2) 生徒の実態

英語に苦手意識をもっている生徒は多いが、全体的に明るく、週1回ある AET とのティーム・ティーチングの授業には特に意欲的に取り組んでいる。ただ、生徒個々の学力差が大きく、特に書く活動については、下位の生徒への支援が必要な学級である。家庭学習に対する意識が低い生徒も少なくなく、具体的で継続的な指導が課題である。

① コミュニケーションへの関心・意欲・態度

昨年度実施の教研式 CRT では、得点率が70.5%であり、全国比96%と下回ってはいるものの、4観点の中で最も良い項目であった。普段の授業については、4月当初と比べ、英語を使うことに抵抗感を示す生徒も大分少なくなり、様々な言語活動に前向きに取り組めるようになってきている。

② 表現の能力

教研式 CRT では、得点率が57.7%、全国比88%であり、全国に比べて努力を要する観点であった。と同時に、A、B、Cの割合がほぼ3分の一ずつ占めるなど一斉指導が一番難しい項目でもあった。領域別にみると「話すこと」が全国比とほぼ同じ値を示しているのに対して、「書くこと」にかなりの落ち込みが見られた。更に小領域や小問の内容を分析すると、単語の綴りの問題がすべて全国比を下回っていた。このことから、「伝えたい内容を考え、正しく書く」以前に、文の構成単位である単語が正確に“書けない”という実態が浮かび上がってくる。簡単な単語を書けない生徒も少なくなく、発音と綴りを関連づけた指導も含めて「書いて表現する」力の育成が課題である。

③ 理解の能力

教研式 CRT では、得点率が 65.9%、全国比 93% であった。領域別にみると「聞くこと」が全国とほぼ変わらないのに対して、「読むこと」に落ち込みが見られた。特に「基本的な英文を読み取ること」が「文字等の知識を身に付けること」と共に小領域別で最も低い結果となっており、ここでも単語の意味がわからないことが読み取る力に大きく影響しているものと思われる。

④ 言語や文化についての知識・理解

教研式 CRT では、得点率 49.9%、全国比 81.8% と 4 観点の中で、最も全国に比べて努力を要する観点であった。また、C 判定が半分以上を占めるなど、底上げの必要な項目でもある。小問分析を見ると、単語の綴りや未来形・不定詞・動名詞・過去形の適語選択、語順整序の疑問文等に落ち込みが見られた。夏休みに実態を把握するためアルファベットのテストを実施したところ、大文字と小文字の混同や位置の誤り、順番の誤り、文字の欠落のミスも意外に多く、半分以上書けない生徒も複数いることが分かった。高校との連携を考えるうえでも、動詞を含めた語彙力と共に、最低限アルファベットは書けるように粘り強く指導していく必要がある。

(3) 指導観

本単元で扱う文法事項は、*Would you like to?* であり、助動詞 *would* はここで初出となっている。指導書の解説編には、*would like to...* について説明をし、そこから *would you like to....?* につなげるほうがよいと書かれているが、生徒の抵抗感を少なくするために、*Let's....* より丁寧な言い方が *Would you like to?* であると対比して提示し、慣用表現としてとらえさせたい。そして、理論的な説明については *want to* を使った「さそう」表現と併せて、最後に触れることとしたい。

本単元は、「話す」表現活動に重点を置いたコミュニケーションの仕方が学習内容となっているが、本校の生徒の実態から、「書いて表現する」活動も取り入れていきたい。書く力を育成するためには「音」から最終的に「文字」に変えるところまでセットで指導することが必要であり、そのためには 1 時間 1 時間の授業の中に「書く」活動を意図的に仕組む以外にはないと考える。書く力をつけるためには、既習事項の **Recycling** が有効であることから、モデル対話の練習後に、3 連文で生徒に「さそう」スキットを書かせることとしたい。その際、1、2 年で習った表現も予め提示し、文の構成例を示すことで「何を」「どのように」書いたら良いかが分からない生徒への支援をすると共に、既習表現の復習や定着も兼ねたい。なお、スキットは、次回から来校する AET を「さそう」ことを想定して作らせ、実際に 1 対 1 でのスピーキングテストを行う。学ぶことの意義が見えて、知識が生きて働くという実感がわくような学びは、学習意欲を喚起する上で必要なことであり、AET との 1 対 1 の会話は、まさにそれに通じるものであると考える。現実にはモデル対話どおりスムーズに話が展開するとは限らないが、ここでは 3 連文で AET をさそい、待ち合わせの時間と場所を決めることができればよしとしたい。

自己評価について、生徒自身が何をどこまで理解しているかを認識することは外国語の習得にとって大事なことである。そのため「今日どれくらい頑張ったか」ではなく、「今日分かったことは何か」「まだよく分からないことは何か」など、学習内容の理解を確認する内容を毎時間記述させたり、必要に応じて英作文や語順整序の問題など、学習内容の定着状況を確認することを行っている。本単元においても実施し、添削・コメント等を一人一人にすると共に、多くの生徒が分かっていないところについては次の授業で改めて説明するなど、自己評価を授業に生かして分かる授業を展開していきたい。

3 単元の見目標

○「～ませんか」と人をさそったり、「～しましょう」と提案したりすることができる。

4 単元の指導計画と評価規準（2時間扱い）

時	指導目標	評価規準			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 本時	Would you like to....?の形・意味・用法を理解し、表現できるようにする。		Would you like to....?を含んだ表現を用いて相手をさそう対話を書くことができる。		Would you like to....?の形・意味・用法を理解している。
1	実際に Would you like to....?を使った対話ができるようにする。	AET と 1 対 1 で Would you like to....?を使って話している。	AET と 1 対 1 で Would you like to....?を使ってさそう対話ができる。		

5 本時の指導

(1) 目標

- ① Would you like to....?を使って、さそう対話を書くことができる。（表現の能力）
- ② Would you like to....?の形・意味・用法を理解している。（言語や文化についての知識・理解）

(2) 具体の評価規準

	A:十分に満足できる	B:おおむね満足できる	Cの生徒への手立て
表現の能力	Would you like to....?を使って、さそう対話を正確に書くことができる。	Would you like to....?を使って、さそう対話を書くことができる。	3連文の構成例を参考に、有効な既習表現を指導する。
言語や文化についての知識・理解	Would you like to....?の形・意味・用法を正確に理解している。	Would you like to....?の形・意味・用法を理解している。	語順や構造を説明する。

(3) 展開

段階	学習活動	指導の工夫	評価
導入 10分	1 Greetings 2 学習課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ○ Greeting card の使用 ○ 二人で会話をしている場面から新文型を導入し、内容を推測させる。 ○ 「ヒラメキマーク」を活用し、新文型に注目させる。 ○ モデルを提示することで、生徒に具体的な目標を持たせる。 	
<p>ていねいにさそう文を完成させよう。</p>			
展開 37分	3 新文型の説明と練習 4 新出単語の意味確認と発音練習 5 本文の概要把握と音読練習 ・ 口頭での簡単な概要把握 ・ chorus reading ・ role playing ・ read and look up など 6 スキット作り	<ul style="list-style-type: none"> ○ 既習の表現と対比して提示 ○ 実際に ALT を誘うつもりで口頭練習をさせる。 ○ フラッシュカードの使用 ○ I'd love to. は慣用表現として覚えさせる。 ○ 口頭でスピーディーに意味を把握し、音読練習で理解の定着を図る。 ○ 音読の仕方に変化をもたせながら、練習させる。 ○ 次回から来校する AET を「さそう」ことを想定したスキット作りをすることで、学びの意義が見えるようにする。 ○ ワークシートの活用 ○ 既習表現の提示と選択による3連文作り ○ ペアでの教えあいと教師による支援 ○ スキット作りを終えたペアには、スピーキングテストに備えて練習をさせる。 ○ 言えるようになったら、見ないで書く練習をさせる。(暗唱から暗写までできるようにする。) 	<p>□Would you like to....? の形・意味・用法を理解している。(観察)</p> <p>□Would you like to....? を含んだ表現を用いて相手をさそう対話を書くことができる。(記述)</p>
終末 3分	7 学習内容の確認と自己評価 8 SP テストの連絡と家庭学習の確認 9 Greetings	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒自身による理解状態の把握 ○ 宿題を通して家庭学習の仕方を身に付けさせる。 	<p>□Would you like to....? の形・意味・用法を理解している。(語順整序)</p>

板書計画

sunny

Wednesday

September

third

Today's
point

< ていねいにさそう文を完成させよう >

『さそうときの言い方』

Let's play tennis. (テニスをしよう。)

ていねいな
言い方

動詞の原形

Would you like to play tennis? (テニスをしませんか?)

～しませんか。